

● 西南学院大学

図書館報

No. 62

1974年10月11日発行

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館

学生と図書館

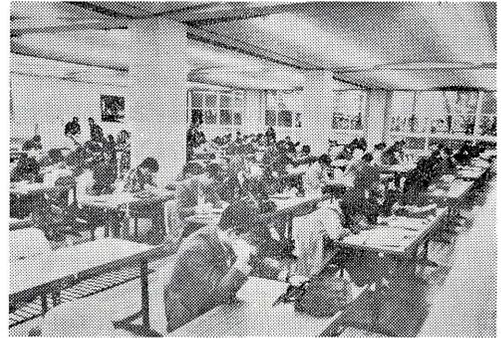
文学部教授 西尾陽太郎

● 私がもと勤めていた大学の図書館を新築する計画があって、そのために西南学院大学の図書館を参観させてもらった事があった。当時はこの図書館も新装成ったばかりで、美しい外観、整備された内部設計、そしてその中で静かに読書している学生の姿などに羨望の念を抱いたことを今も思い出す。転任して来てその図書館に入出入りするようになった現在でもその感じは変わらない。

● 大学に学び、研究に従う者にとっては、図書館は中核的な存在である。大学の品格はその大学の図書館の内容の充実按比例し、またその大学の教師・学生の図書館利用の態度に現されるといっても過言ではない。図書館に向い、その玄関に入ってゆく学生の顔には、常に何か真剣さがある。館内を支配する静かさ、これもまた貴重なもので、図書館を愛するものはまた、この静粛さを愛するものでなければならない。それは各人の頭脳の自然化の状態からひきおこされた静寂、緊張のもたらす静粛とでもいうべきであろう。

● 最近の図書館業務は日まじにその便利さと開放性が要求されつゝある。国の内外に亘る情報の交換と蒐集、資料の複写サービス、読書研究の指導と案内、視聴覚教育設備など。この西南学院大学の図書館にもそれらの面の整備の努力が払われつゝある。しかしその便利性と開放性が図書館の静粛さを失なってはならないと考える。

● 最近の学生の図書館利用状況はどのようなものであろうか。入館者の態度に限って言えば良好のように見える。たゞ7月の図書館報によれば、各学部の入館者数・館外貸出人数・貸出冊数とも、いずれも前年度に比して、かなりの減少の傾向が見られる。学生にとっての教養・学習・研究の便宜は日毎に増して、図書館だけがその場所でなくなっていることは充分理解できるが、理由はそれ



だけであらうか。大学生時代に本来の貪欲な知識欲が単なる大学卒業資格取得一単位取得によって他にそらされている点はないであらうか。このような傾向が後進国の大学生に大きいことをイギリスのサセックス大学教授ドーア氏は指摘し、これを教育における「後発効果」とであるという。「後発効果」とは、後発国（ドーア氏が新しく造った日本語で、後進国と同じ）における先進国文化の効果（よい効果も悪い効果も含めて）の意味である。つまり後発国の社会ほど、すべて形成的な資格によって、社会的身分がきめられ、エリートとして扱われやすい。大切なのは、経験・研究による知識・技術であるのに、それは置き去りになり、学生は徒らに大学に群り、学ぶことは忘れて単位取得のみに甘んずる。そこにその社会の自ずからの空洞化が生じやすい、との意見であった。その時の講演は、いわゆる後進国についての話であるから、日本のことを指しているのではないが、知日家たるドーア氏は、案外、心の中では、「日本も同じ」と考えていたのではあるまいかという気がした。最近、氏はまた日本に招かれて講演し、その中で、最近まで貧乏であった日本が、このごろは背伸びしているが、こんな講演会もお寺の本堂でも借りてやったらどうかというような事を云っている。誠によく日本の実状を理解、いや、洞察した知日家の言というべきである。

● 図書館の入館者も、ドーア氏の言をかみしめる時、入館者の多きを尊しとせず、真の読書人の入館をもって誇りとなすという伝統がこの大学にあるならば、入館者数の減少など大した問題ではないのかも知れないのである。 (図書館委員)

外国図書館シリーズ その4

ロンドン大学の図書館

文学部教授 木下浩利

ロンドン大学は30あまりのコレッジ、スクールなどから成り立っているが、「コレッジ」とか「スクール」というのは学部学科をもつなかば独立の大学である。

その中で最古の University College London は文科系から理工系にわたる6学部45学科をもち、学生数も5,500(うち3分の1は大学院学生)に達している。

したがってロンドン大学には総合図書館のほかに、各コレッジ、スクールに付属の図書館がある。ここではその中からユニバシティ・コレッジの図書館とSOASの図書館を紹介しよう。(SOASとはSchool of Oriental and African Studiesの略である。)

ユニバシティ・コレッジの図書館は、丸屋根と柱廊式の玄関をもつ本館の3階にある。蔵書数は図書85万、雑誌7千種といわれ、ほとんどすべて開架式である。古い建物を改造したらしく、多くの小部屋に分れていて、冬などはとくにうす暗いが、それがかえって落ちつきを与えている。

書架の本は一見して「よく読まれている」ことが分かる。

製本し直した本もかなりある。名のある学者がかつてここに提出したタイプ打ちの学位論文もチラホラ見える。

雑誌のバックナンバーも開架式である。この部屋も狭くて、あるときは四つんばいになり、あるときはハシゴをよじのぼらなければならないが、とにかく自由に利用できるのはありがたい。

帯出は学部学生が6冊まで、大学院学生は9冊までだったと記憶している。期限はなくて好きだけ借りていることができるが、リコールの通知を受けたときには3日以内に返却しなければならない。

複写機は大学のあちこちにある。図書館のは1pのコインを3枚(約20円)入れて1枚複写をとる電子リコピーだった。枚数の多いときには、コインを入れるのがめ

んどうなので、デポジットを置き、あとで清算してもらうこともできる。

SOASの図書館は1973年に新築された地上5階地下1階のビルである。

2階に広い読書室があり、天窗まで吹き抜けになっている。その吹き抜けが上に行くほど広くなっている。「とじこめられた」感じはしない。

読書机は各階の外側の窓に面したところにもある。全館に——書架の間も階段も——じゅうたんが敷きつめてある。わたしはよく書架の間にどっかと腰をおろして書架の本を1冊1冊手にとって目を通したものだ。

ここには東洋およびアフリカ関係の図書が約40万冊ある。日本関係の洋書が3,200冊、和書が35,000冊、雑誌は200種以上、中国関係の洋書が7,000、タテ文字の本が

100,000、雑誌は150種以上という。

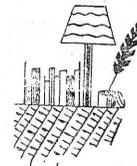
日本の図書館ではあまり見かけない旧陸海軍の図書や、戦時中もてはやされた思想家の全集などもある。わが国で英語排斥運動が起きていた頃、この国ではこういう本をせっせと集めて日夜研究を続けていたのだろう。

日本語の方言に関する本もかなり揃っている。このSOASには日本人の話をちょっと聞いただけで「あなたは〇〇の方ですね」とピタリと当てる青い目の先生がいらっしゃるそう。日本の古典もりっぱに揃っている。保元、平治、竹取などの古い写本もあるというし、法隆寺金堂壁画の実物大の模写もある。

貴重な美術書も多く、読書に疲れた目を喜ばせてくれる。



University College Londonの本館



書評 — 読書の秋にあたって —

松本容子

私は図書館に勤務して6年目です。その間に、二度も入院生活を送ってしまいました。

4年前には交通事故、そして今年3月終りには急性肝炎のため入院の破目になったのです。入院中の退屈のききは、やはり読書です。本当言うと、幼い頃から、あまり読書と言う読書をしてないせいか、本を読むのが遅くて遅くて、そのうえ理解力も悪いし……一冊の本(約三百頁)を読むのに一週間以上は、かかってしまう始末です。入院中は、三浦綾子さんの「積木の箱」を夢中で読みました。若い男教師と、家庭の愛情に飢えた中学生の男子生徒との、心のふれあいを描いたものです。

なかなか素直になれない生徒は、学校に放火してまでも男教師—いや父親に対して反抗するのです。男教師の苦悩が痛々しい程に伝わって来て、胸が熱くなりました。最近、「日本教養全集」の4巻を、読み終えたばかりです。内容は、瀬戸内晴美氏の「愛の倫理」、曾野綾子氏

の「誰のために愛するか」、藤原てい氏の「いのち流れるとき」、石垣綾子氏の「愛の勇気と英知」の四部作になっています。それぞれの環境で育った彼女たちの体験に基づいて生み出された人生論と言うか、人間味あふれる素晴らしい本だと思います。瀬戸内氏は、世俗の道徳にとらわれず、自己に誠実な愛を求めた人です。

戸内氏は、世俗の道徳にとらわれず、自己に誠実な愛を求めた人です。

曾野氏は、身近な出来事に心を捉われて暮すことに『神の優しさ』を感じる事ができるカトリック教徒です。藤原氏は、戦後の極限の状況で生き抜き、誰にも負けないファイトの塊みたいな人です。石垣氏は、女性の各分野における能力を力一杯発揮しながら、現実の社会的な矛盾を、女性自らの手で打破すべきだと強調しています。人間は何のために生きて行かなければならないのでしょうか?……そして人間の愛情とは何なのでしょう?……生きがいを見出すこと、それが人生だと、自分を犠牲にすること、それが愛情だと、この本は教えてくれるでしょう。

(本館司書補)

「世界人口年」によせて



って猛威をふるった結核は、終戦後の25年当時に比べ5分の1から10分の1程度にその確率を低下させ、日本人の平均寿命は、男70.70歳、女76.02歳となり今後増々上昇の傾向

をたどっている。

三、ところで、毎年10月24日は「国連デー」である。今年、「世界人口年」にあたるので、当日、国連の閲覧室に若干の人口問題関係の資料・ドキュメント類を展示致しますので、ご高覧下さい。又、11月5・6日と、毎年恒例の国連寄託図書館会議が今年、薬院の九州国連寄託図書館で開かれる。

四、最後にご参考までに、国連が決めたテーマを、少し遡って述べますと、1972年が、Book Year. 1973年が、人種差別に反対する為の行動の年。今年、省略。来年は、婦人の差別を撤廃する為の行動の年である。

参 考 資 料

1. 国際連合・世界人口年鑑 1973 原書房
2. 人口の危機と対策 1973 ドメス出版
3. エコノミスト Vol.52, No.33・42
4. 朝日ジャーナル Vol.16, No.28・36・38・39

(楨記)

一、1974年は、「世界人口年」である。それに因んで、ルーマニアの首都ブカレスト(人口160万人)で国連世界人口会議が「全人類の地球は一つ」をスローガンに、8月19日から30日迄の12日間開かれた。会議の参加国は130国。政府代表は、2,000人であった。今年、第3回目にあたり、第1回は、1954年にローマで、第2回は、1965年にベオグラードで、それぞれ開かれたが、いずれも専門学者の会議であった。しかし、今度は、人口問題の解決のために、各国政府代表が集まって、「世界人口行動計画」を策定しようというねらいであった。

二、さて、世界人口は、1975年には、40億に達すると推定される。現在の39億において日本は、中国、インド、ソ連、米国、インドネシアに次いで六番目に多い。日本は、10月1日、推定人口は、1億1千万を超える。又、人口密度は、人口500万人以上の国では、バングラデシュ、韓国、オランダ、ベルギーに次いで5番目に密度1平方キロ当たり295人である。それに我国の男女どもの三大成人病は、脳卒中、ガン、心臓病であるが、か

☆ ニュース・NEWS・お知らせ・INFORMATION ☆

＜福岡県・佐賀県大学図書館協議会

福岡地区研究会の当番館＞

この協議会は福岡地区、南部地区、北部地区の3地区から構成されているが、49年度の福岡地区研究会の当番館に本館が決まりました。その第1回はすでに7月29日15館・37名の出席をもって「管理・総務および閲覧業務」のテーマで開催されました。年4回の開催を予定しています。

＜学院図書館協議会開催さる＞

西南学院のなかで図書、資料、視聴覚資料等を扱っているまたは予算をもっている、大学図書館、学術研究所、LL、電算機センター、国際交流事務室、神学部分館、短期大学部、高校図書館、中学校図書館の担当者が集って去る8月22日本館で開きました。最近では大学だけでも図書、資料等をつつかう部局がおおくなったので、その管理、保管、整理等についていろいろ情報を交換しました。今後も年1回以上開催する予定にしています。

＜増加図書目録の発行＞

近着図書情報誌として今度増加図書目録を発行することにしました。学術研究所と本館二階の辞書棚のうえに備付けておきますのでご利用下さい。速報性と蔵書目録の性格を出すため年3～4回発行の予定です。

＜新図書館委員紹介＞ (49.7.1付)

神学部	R. H. カルベッパ
教養部	西尾 陽太郎
文学部	
英文	真 鍋 誠
仏語	末 松 寿
児教	堺 太郎
商学部	岡 本 幸雄
経済学部	吾 郷 健二
法学部	川上 宏二郎

＜図書館委員会＞

49. 4. 9

(議題)

- ① 図書館資料費予算配分、支出および決算に関する規則
- ② 指定図書募集・査定の基準と方法の件
- ③ 院生の処遇について

49. 4. 19

- ① 48年度図書館決算について
- ② その他

49. 7. 11

- ① 49年度図書館予算について

② 司書会規則について

③ 高額図書購入制度にもとづく高額図書購入の申請について

＜研修・出張＞

九州地区大学図書館協議会 49. 5. 10

〔於：はかた会館(九産大当番)〕 木村館長・刀根司書長、杉本課長補佐、野口司書補出席

福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会 49. 5. 24

(於：北九州大学) 木村館長、箱田、品川司書補出席

私大連盟大学図書館研究集会 49. 6. 25—29

(於：群馬・草津ホテルビレッジ)

箱田、品川司書補出席

私大図書館協会第35回総・大会 49. 7. 18—20

(於：駒沢大学) 今永係長出席

＜人事異動＞

昇任 49. 4. 1付 (司書補) 松本 容子

異動 " (司書) 田中 進 教務課へ

" (") 中村 晴光 秘書課へ

49. 9. 1 箕原加代子 経理課へ

任用 49. 4. 1 (司書) 荒川 勇 洋書整理係

49. 9. 1 大熊久美子 奉仕係

告知板

○ 大学祭期間中の開・閉館時間

11月13日(水)～17日(日)の大学祭期間中の開・閉館時間を下記のとおりとしますので、ご承知ください。

11月13日(水)～15日(金) 9時～17時

11月16日(土) 9時～12時

なお、学習室は閉室いたします。

○ 卒論特別貸出について

4年次生は卒業論文作成のための特別貸出をすることができます。通常の貸出のほかに3冊以内、期間は1カ月です。希望者は受付まで申し出てください。

あとがき

先日、K市の原始と現代を結ぶ世紀の巨匠の Henry Moore 展を鑑賞してきたが、「家族」というのが秀作とのことであった。あと、日本庭園があり、なかなか意匠をこらしてありいいところであった。

ところで、日曜、日直をしていたら「あすの祭日は開館しないのですか？」の電話。この熱意が、試験期だけにとどまらないように。

なお、当号にご寄稿されました、西尾、木下両先生に厚くお礼を申し上げます。(Y.M)

自 昭和49年2月 ～ 至 昭和49年9月

- (敬称略)
(和漢書の部)
- 愛知県勤労会館より 『労働関係文献索引 1973年版』
- 芦屋大学より 『芦屋大学創立10周年記念論文集』
- 防衛庁より 『防衛年鑑 1974』
- 朝鮮奨学会より 『学術論文集 第3集』
- 大韓民国駐日公報館より 『韓国動乱』
- 大都市統計協議会より 『大都市比較統計年表 昭和47年』
- 福岡印刷より 『飢餓山脈』
- 福岡県より 『福岡県勢要覧 昭和48年版』
- 福岡県教育委員会より 『九州の石塔』 2部 他2冊
- 福岡県労働部より 『福岡県労働経済白書 昭和48年版』 他1冊
- 福岡市より 『福岡-1973市政要覧-』
- 福岡市文芸運営委員会より 『福岡'73文学賞』
- 福岡市総務部統計課より 『福岡市統計書 昭和48年版』
- 福岡市役所より 『福岡市史 第7巻』
- 船越栄一学長より 『続あの目の眼』
- 服部時計店より 『時計史年表索引』
- 肥後相互銀行より 『肥後相互銀行40年史』
- 石井記念友愛社より 『石井十次日誌』
- 石川重俊氏より 『苦悩する現代文学』
- 時事通信社より 『統計と人生』
- 自由民主党より 『自由社会にっぽん 昭和49年度版』
- 人事院より 『国家公務員給与等実態調査報告書 昭和48年1月15日現在』
- 河村博文氏より 『現代法学講義』
- 慶応義塾大学三田情報センターより 『三田情報センターの収書方針と第二次収書計画 昭和48～50年度』
- 健康保険組合連合会より 『社会保障年鑑1974』
- 建設省河川局より 『海岸統計 昭和48年度版』
- 金融経済研究所より 『金融研究会講演集』
- 麒麟麦酒株式会社より 『親子を考える』
- 北九州市公害対策局規制部企画調整課より 『北九州市の公害 昭和48年度版』
- 清岡雅雄先生より 『憲法概説』 他1冊
- 神戸大学経済経営学会より 『経営学・会計学・商学研究のために』 2部 他2冊
- 国桂会より 『田中智学先生略伝』
- 国土計画協会より 『新しい都市交通システムの評価に関する基礎的調査』
- 国立公文書館内閣文庫より 『譜牒餘録 上』
- 国立国会図書館より 『国立国会図書館新収洋書総合目録 1971 part I～II』 他2冊
- 国際電信電話株式会社より 『衛星通信年報 昭和47年度』 他1冊
- 共同通信社開発局より 『世界年鑑 1974』
- 共栄火災海上保険相互会社より 『共栄火災30年史』
- 共立女子大学文芸学部より 『共立女子大学文芸学部創設20周年記念論集』
- 京都大学人文科学研究所より 『異端運動の研究』
- 京都外国語大学対属図書館より 『京都外国語大学蔵書目録 和漢書之部 巻1』
- 九州大学法学部図書掛より 『九州大学法学部貴重書目録-欧文編- 1974年版』
- レーベル先生より 『岡山景政百年の歩み』 他1冊
- ライオン歯磨株式会社より 『ライオン歯磨八十年史』
- 松野敏男氏より 『外人百人一首』
- 名城大学附属図書館より 『名城大学蔵書目録 第1～2巻』
- 未来社より 『沢崎堅造の信仰と生涯』
- 三井信託銀行より 『ライフ プラニング』
- 宮崎県立図書館より 『宮崎県立図書館蔵書目録 第4巻』
- 武蔵大学学会より 『武蔵大学開学10周年記念論文集』
- ニコルソン氏より 『やぎのおじさん行状記』
- 新居浜市より 『新居浜産業経済史』
- 日本大学総合科学研究所より 『日本大学研究業績総覧〔XXI〕1970 前期～後期』 2部
- 日本銀行調査局より 『日本金融年表明治元年～昭和48年』
- 日本観光開発財団より 『Young の旅 '74年版』

- 日本航空株式会社より 『日本航空20年史』
- 日本ペンクラブより 『日本文化研究国際会議事録1～2』
- 日本政経新聞社より 『国会便覧 昭和49年2月改訂新版』
- 日本生命保険相互会社より 『保険年鑑 昭和47年度』
- 日本ユネスコ国内委員会より 『ユネスコ関係条約・勸告集』
- 農林中央金庫より 『農林中央金庫法逐条解説新版』
- 農林漁業金融公庫より 『農林漁業金融公庫20年史』
- 小田松五郎氏より 『法律学全集 第2巻』
- 大神二郎氏より 『博多おおまん太郎』
- 大阪商工会議所より 『五代友厚関係文書目録』
- 太田和男先生より 『フランス』
- 小樽商科大学人文科学研究会より 『カントの宗教哲学』
- RKB毎日放送株式会社より 『放送20年』
- 佐賀県より 『佐賀県のすがた 1974』 他1冊
- 佐藤靄子氏より 『日本名画家伝 物故篇』
- 成城大学経済学部より 『ラテン・アメリカ商事法』 他1冊
- 生命保険協会より 『生命保険に関する全国調査 昭和48年度』
- 世界の動き社より 『現代中国の知識』
- 社会保険庁より 『社会保険庁事業年報 昭和47年度』
- 島内龍起氏より 『東京裁判弁護雑録』
- 証券投資信託協会より 『証券投資信託年報 昭和48年版』 2部
- 創価学会より 『平和への行脚』 2部 他6冊
- 損害保険事業研究所より 『損害保険事業研究所創立四十周年記念損害保険論集』
- 鈴木金属工業より 『スズキのピアノ線35年のあゆみ』 2部
- 田辺康平先生より 『手形・小切手法講義』
- 田代義範先生より 『産業人の未来』
- 天理教教会本部より 『天理教年鑑 昭和49年版』 2部
- 東京大学文学部より 『東京大学文学部研究報告 文学哲学論文集』
- 東京空襲を記録する会より 『東京大空襲・戦災誌 第5巻』
- 東京証券取引所より 『東京証券取引所20年史』
- 東京都民生局国民年金部長より 『国民年金事業年報 '72』
- 東京都商工指導所より 『業種別総合調査』 全2冊
- 東京都総務局統計部より 『東京都統計年鑑 昭和47年』
- 東洋大学図書館より 『東洋大学図書館蔵書目録 第1巻』
- 通商産業大臣官房調査統計部より 『わが国の商業 1973』
- 八重州商工株式会社より 『中小企業事業転換事例集』
- 八幡大学社会文化研究所より 『明治憲法における予算制度の研究』
- 山崎峯次郎氏より 『香辛料 I』 2部
- 山下和夫氏より 『資料組織化論』
- 吉川弘文館より 『肖像選集』
- 全国商品取引所連合会より 『商品取引所年報 昭和46年度』
- (洋書の部)
- 福岡ユネスコ協会より 『Overseas Japanese Studies Institutions. 1973.』
- 外務省より 『Adventure in Oil』 他1冊
- 中村栄子先生より 『Japon Troisième Grand.』 他4冊